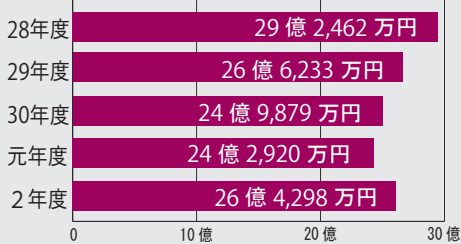


基金と地方債の年度末残高の状況を見てみよう!

今の白鷹町の財政状況はどうなっているのかなあ?

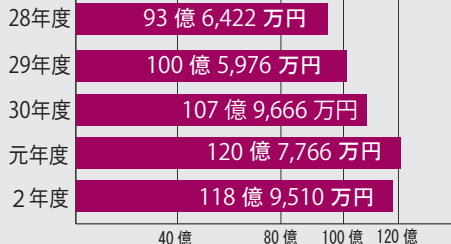
●積立基金（貯金）残高の推移

町民一人あたり残高 200,911円 (前年比 +19,925円)



●地方債（借入金）残高の推移

町民一人あたり残高 904,227円 (前年比 +4,386円)



主な基金 (積立基金) の積立状況

名称	金額
財政調整基金	9億5,527万円
減債基金	6億709万円
公共施設整備基金	5億4,374万円
スポーツセンター整備基金	1億993万円
福祉振興基金	1億2,628万円
その他の基金	3億67万円
積立基金合計	26億4,298万円

「基金」とは？

特定の目的のために積み立てる町の預貯金のことです。財政調整基金や今後の事業のために積み立てを行うもの（積立基金）のほか、定額の資金を運用するためのもの（定額運用基金）があります。

前年度との比較と今後の見通しについて...

令和2年度は、共創のまちづくりの理念のもと、総合的かつ持続可能なまちづくりを進めるための各種施策を展開するとともに、全国的に感染が広がった新型コロナウイルス感染症と、7月に本町を襲った豪雨災害への対応を実施しました。

一般会計における決算は、前年度に比べ歳入総額で6億6693万円（6.5%）、歳出総額で5億2570万円（5.5%）上回る結果となり、収支差引は8億5566万円となりました。

歳入については、町が自主的に収入することができる町税などの**自主財源**は、まちづくり複合施設整備事業の終了に伴い公共施設整備基金繰入金金が皆減となったことなどにより、前年度に比べ約2億5875万円の減少となりました。また、国や県からの補助金や地方交付税、地方譲与税、町債（借入金）などの**依存財源**は、約9億2568万円の増加となりました。

歳出については、支出が義務づけられ任意に削減できない**義務的経費**は、会計年度任用職員制度の開

始により人件費が約1億8143万円、公債費（借入金返済）が約7079万円の増加となりました。義務的経費以外の**任意的経費**では、普通建設事業費（公共・公用施設の整備経費）が、まちづくり複合施設整備事業の終了等に伴い約19億8124万円減少したものの、新型コロナウイルス感染症対策である特別定額給付金給付事業等の実施により補助費等が約14億7738万円増、豪雨災害の対応により災害復旧費が約2億8991万円増となりました。そのほか、コロナ禍における財政需要等に備え、感染症対策基金（3300万円）、地域経済変動対策基金（1億円）を設立しました。持続可能で健全な財政運営を基本とした取組を進めていますが、公債費等の義務的経費が少しずつ増加していることに加え、国から配分される地方交付税と国や県の補助金などへの依存度が高く、自主財源の確保が大きな課題となっております。

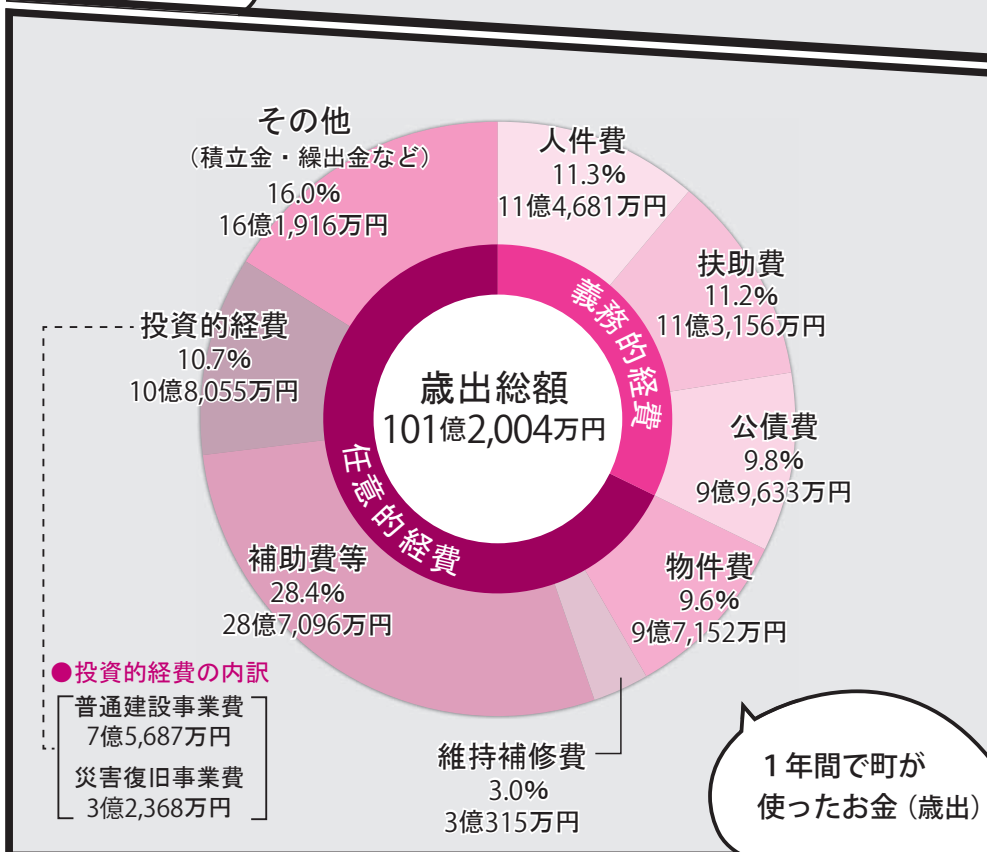
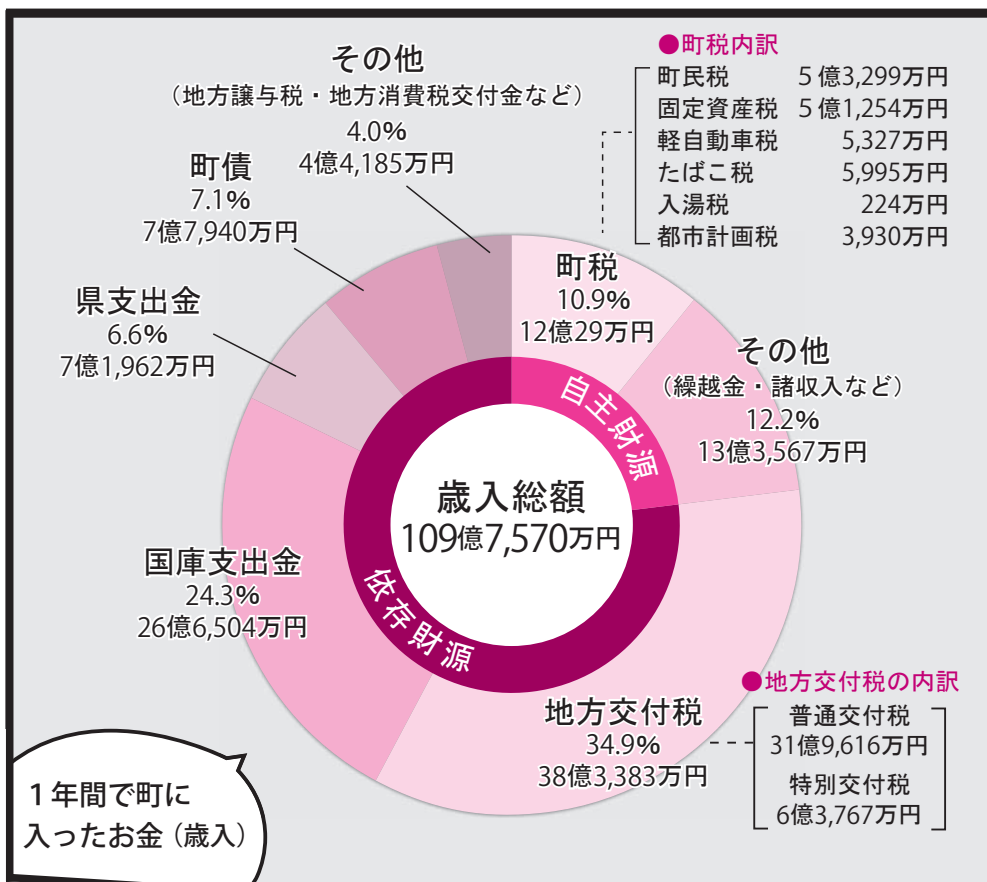
引き続き、計画的な行財政改革の推進に努め、より良いまちづくりを進めていきます。

では、具体的にどのようにお金が使われたのか、気になる中身を次のページで見よう!

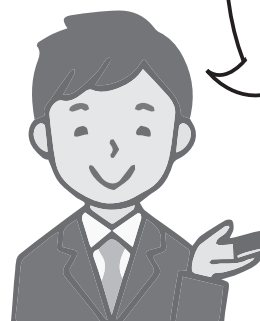


令和2年度一般会計の決算内訳がコチラ！

皆さんに納めていただいた税金の使い道がわかる！



まちの財政状況



令和2年度の決算を報告します。